

PAM通信 コラム

2010年3月発行

<第36回>タイトル：身の丈にあった…。

「お笑い芸人」の業界と「ラーメン」の業界には、熱いエネルギーを感じます。10年以上も下積みが続けながら芸を磨き、いまだに若手として振舞う芸人さんや、売れた後でも痛い目にあって笑いを取ることをいとわない芸人さん、新しい味を作り出し極めようとするラーメン店主など、頭が下がります。では、障害者福祉の業界はどうでしょう？障害者も介助者も“そこそこの生活”が出来る様になったことで満足し、エネルギーを失ってはいないでしょうか？

少し前に町田市では選挙がありました。市長候補の1人が「身の丈に合った街づくり」を訴えていました。現在の厳しい経済状況から考えられる最善の策との意味です。おいしい話を並べる候補者が多い選挙で、ずいぶん正直なことを言う人だと思っていました。私はこの人に市長になって欲しいと思っていましたが、残念な結果に終わりました。ただ、この人の主張の「身の丈に合った～」という表現には引っかかりを感じていました。「身の丈に合った生活をする」と「希望に向かって生活をする」ことの間接的な関係を、どう捉えたらいいのかについてです…。

“生きていくこと”は“思い通りにならない事へ向き合うこと”と同義語だと思います。例えば、障害を持ち介助を必要とする生活をするには、そこから派生する苦勞に向き合うことです。家庭を持てば家族への責任や家族関係の問題に向き合わなければなりません。障害や家族は無くても“仕事や人間関係が上手く行かない”などの心配事へ向き合うことは誰にでもあると思います。そんな時は、状況に合わせて自らの生活や希望のレベルを下げて問題を避けることも1つの対処法だと思います。しかし、このレベルを下げた生活が「身の丈に合った生活」なのでしょう…？「身の丈に合った」の意味を否定的に解釈すると上記のような“レベルを下げた”になると思います。しかし、レベルを下げた生活を続けることは、いつか後悔に苦しむのではないかと不安を抱え続けることでもあると思います。本当の「身の丈に合った」の意味は、“何が大切（または重要）なのかを深く考える”ことなのかもしれません。“身の丈にあった生活”と“状況に合わせて希望のレベルを下げる生活”は異なるのでしょうか？

“障害者福祉業界”は“お笑い業界”や“ラーメン業界”のように熱いエネルギーへの経済的な見返りが得にくいかもしれません。そして、現状に満足する生き方も、現状から逃避する生き方も、希望にチャレンジする生き方も、自ら選んだ生き方なら、それでいいのかもしれません。さらに、もともと熱いエネルギーなんて要らないという考え方もあります。しかし、長い目でみると“思い通りにならないこと”への対処法としては、“希望のレベルを下げる”ことより“希望へ向かって行動する”ことが有効だと思います。変化する状況の中では現状維持の為だけでも改善の努力が必要だからです。そして、いつか後悔の訪れる日が来ないためにも自分の「身の丈」をよく考えてみる必要があるのかもしれません。あなたは「身の丈に合った生活」を、どんな生活だと考えますか？(T)